



□の中が黒くなっている機能は非搭載

絵画の巨匠にも勝る画質

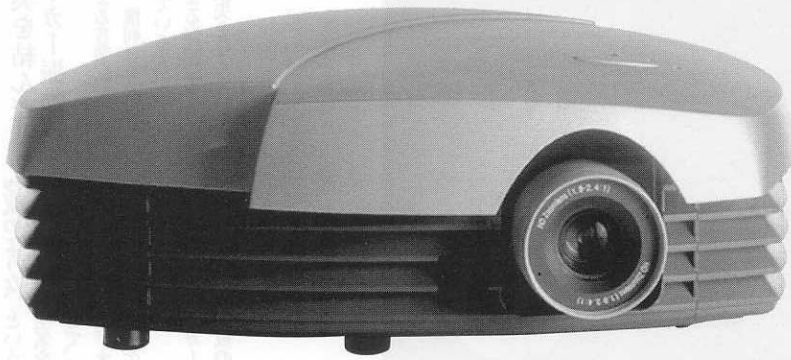
バルコの単板式DLPプロジェクター

吉田伊織

BARCO

Cine VERSUM 70

¥1,554,000 (税込)



プロファイル
性能と造形美の共存
こんなPJは見た事がない

「こんなプロジェクターを見たことない」と感心したのは昨年のこと、シネバーサム110の内覧会であった。三板式のDLPプロジェクターの成熟した光もさることながら、その優美な

造形感覚に見とれてしまったのだ。またその時はまだモックアップであったシネバーサム70も見事であった。あらためてその製品版を見つめると、いかなれば大きな建築物の模型として構想されたかのようだ。どのような光を当てても冴える曲線美にこだわったようであり、力学的な均衡の点では簡素な構造であるドーム型競技場の

ようなものだ。それが視線を吸い寄せ、遊ばせるゆとりを生み出すのだろう。DMDチップはHD2+を採用。単板式の高級プロジェクターの定番である。投射レンズはそれほど大口径ではないが、購入時に選択が可能というのは注目している。標準はF1.8〜2.4のズームだが、F1.4〜1.8倍の短焦点も指定できるのだ。カラーホイールはRGBが2シークエンスの6分割、NTSCで5倍速という標準的なもの。光源ランプはUHPの250W。光出力は1000ANSIルーメン、コントラストは2700対1である。

視聴レポート
名画を彷彿とさせる
見事なバルコカラー

こうしたスベックからは格別な特徴はうかがえないだろう。光学的な可変絞機構も盛り込まれていない。ただし、ひとたび画面すれば、誰しもその独自のトーンに目を見張るだろう。見事なバルコカラーである。

色温度を6000度以上にしても青っぽさやまぶしさが控えて、あくまで低輝度部の階調表現を重視している。深く翳った部分にこそ色素が凝集し、闇に溶けるまでの一部始終が見て取れるのである。見かけの鮮鋭感などコントラストや帯域の強調で作れそうなのだが、これは空気の皮膜と物の表面との境界が打ち震えるように浮き彫りにされる一瞬に賭けているようだ。これは好きか嫌いかの世界である。たとえば、ベルギーの画家デルポロが描く青風色した夜の市街に吸い寄せられた経験のある人にはたまらない魅力だろう。

テストの結果から

業務用のモニター調を求めるならは国産機が適している。明々として証明の色調は素晴らしいだろう。しかし泰西名画の世界はどうだろうか。セザンヌの混沌とした色の斑紋とか、重い群青のクールへの海、あるいはオランダのフェルメールが凍結させた密室の探光。秀逸な意匠とともども、成熟した視線に堪える光を味わいたい。

視聴テスト機器

●プレーヤー：パイオニアDV-S969AVi ●視聴ディスク「ハイビジョンチェックDVD」(メディアックス)、「フォッシー」(WMJ)他 (音元出版第2試験室にて視聴)

SPEC

●パネル解像度：1280×720 ●明るさ：1000ANSIルーメン ●ランプ：250W UHP ●コントラスト比：2700：1以上 ●レンズ投写比：1.4〜1.8：1 ●騒音値：30dB以上 ●映像入力端子：RCAコンポーネント×1、D5×1、S×1、コンポジット×1、DVI×1 ●消費電力：250W ●外形寸法：449W×156H×420Dmm ●質量：7.9kg ●問い合わせ先：(バルコ株) ☎03-5762-8720